

授業改善書

科目名	保育内容の研究(健康)Ⅱ
担当者	丸山東人

授業の概要

科学的かつ実践的立場から子どもの健康を見つめ、援助のあり方を議論している。ここでは、講義の肝所(限られた時間の中で学生に伝えたいこと、運営上の配慮)を三つ述べておきたい。

まず、今日の子どもの心の健康状態について、特に、心身症の増加やコミュニケーション能力の不足が指摘されていることから(日本健康教育学会、日本学校保健学会、日本小児保健協会、文部科学省、厚生労働省)、授業ではほぼ毎回、子どもの心を聞くことの重要性を説いている。これは、身体の発育・発達や遊びについて解説するときはもちろん、生活習慣の獲得過程、食育、事件・事故および災害への備えと対応を取り上げる際にも留意している。今年度は、学期開始直後に熊本地震が発生したこともあり、その翌週は急遽、心のケアの話をした。以後も、「心を育む・心を守る」をテーマに、長らくメンタルヘルス(学校精神保健につながる内容)を中心に授業を組み立て、子どもと保護者を支える保育者・教育者の役割を考えてもらった。

二点目として、学生に対して、将来の仕事に対する矜持を高く持たせるようにしている。具体的には、質の高い小学校就学前教育・保育の政策実行に、近年、世界的な関心が集まっていることを、エビデンスと共に紹介したり(The Productivity Argument for Investing in Young Children (Heckman, et al., 2007)、Early Childhood Education and Care (ECEC)という考え方など)、高度な小児医療・保健とともに増加が予想されている、支援を要する子どもについて話題提供し(障害・慢性疾患、在宅医療、院内学級)、専門職への動機付けが深化する機会を多く設けている。

三点目に、これらを取り上げる際には、受講して「学ぶ楽しさ、知るよろこび」が得られるよう、内容をかみくだき(図表、映像)、親しみやすい解説をするように心がけている。既存の理論の枠組みを説明する場合でも、今後教科書に載るかもしれない新しい学説や学術論文、研究者の論説を積極的に紹介するように工夫している。

専任教員のご尽力のおかげで、子どもの健康支援に関しては、みな既に、健康Ⅰで必要十分な学修を済ませているため、健康Ⅱでは、指針と要領を踏まえつつも、教授内容の点では比較的自由度を持たせて進めている。今後も、学生の反応を見ながら質の高い授業を目指してゆく。来年度以降は、到達目標や教授内容は従来と然程変わらないものの、「学校保健との連携と協調」を強調する味付けにして、他大学の保育内容・健康にはない独自色を打ち出したいと思っている。

授業の問題点

学生に、発言や質問をする機会をより多く提供する必要がある。

貴大学の学生は、普段からレジュメにメモ多く取っている様子である。レポートにも、独立した保育者として高らかな論述をする場合が多い。しかし、学生が持つ有意義な意見を、参加者全員で共有する場面が少なく、大変申し訳なく思っている。

授業改善の課題・方策

一回の授業および履修期間内において、こちらの“解説”と学生の“思考・論述・発言”のバランスをとる。

その他

(私見)

今年度の112人の受講者集団は、着任後いちばん優秀でした。みな素直で明るく、響きあえる関係が作れるため、気持ちよく奉職することができました。経済学部の学生がいらっしやっただのも、私にとっては大変うれしいことでした。私は非常勤ですが、履修生には、目線の高い援助者・社会人となるべく、精進を重ねつつけることを期待します。

またこの際、いつもお世話になっている職員みなさんに、この場を借りて深謝申し上げます。ご多用の折、細かいことに丁寧に応じて下さり、ありがとうございます。